

なぜ今、地域移行が必要なのか

本日は、それぞれ立場の異なる4人の方からお話を聞かせていただきます。まず、なぜ今、部活動を地域移行する必要性に迫られているのでしょうか。

教育委員

津 これまで、生徒は部活動でスポーツや文化に触れてきました。それが生徒の自主性を育んだり、責任感や自己肯定感につながったり、生徒に良い作用を促してきました。これが学校部活動の意義だと考えています。

ところが、近年、これがうまく機能しなくなってきました。二つの要因が考えられています。一つは、生徒数の減少です。この40年で児童・生徒数は半減。今後も同様のことが予想されています。そうすると、部員数が減少し、生徒がやりたい部活に属することができなくなってしまう。

もう一つは、教職員の働き方改革です。教職員の長時間労働が問題になっていきます。文部科学省の時間外労働の基準（45時間以内）を本市の小中学校の6割程度の教職員が超えています。このような状況を改善し、健全な職場環境を整えるため、部活動の負担を減らすことが急務となっているというわけです。

地域移行のこれまでとこれから

佐野市における地域移行は、どのように進めてきたのでしょうか。また、今後どのように進めていく予定なのでしょうか。

教育委員

津 令和3・4年度、県の指定を受けて部活動地域移行の実践研究が田沼東中学校で始まりました。その成果をもとに、

地域移行で環境作りを目指して

学校、部活動顧問、地域指導者の立場からお話を伺いました。

たぬまアスレチッククラブ

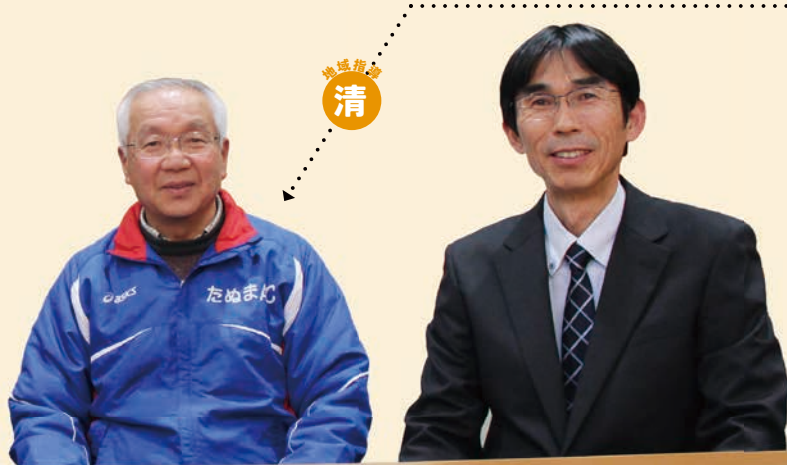
清水 武治 さん

田沼アスレチッククラブマネージャー。
地域の指導者の立場からお話しいただきます。

田沼東中学校教頭

新井 義之 さん

部活動地域移行準備段階から業務に従事。
学校管理者の立場からお話しいただきます。



地域指導者
清

教育委員
新

令和5年度はあそ野学園義務教育学校も加え、先行実践研究が行われました。並行して、佐野市では令和5年度、この取り組みを市内全域に拡大するための「部活動地域移行推進計画・佐野モデル」を策定しました。計画では、令和6年度は葛生義務教育学校でも地域移行を実施、令和7年度は市内全域で試行、令和8年度からは市内全域で本格実施をしていく内容となっています。ただし、地域クラブが指導を行うのは、月2回といった想定になっています。

佐野市の取り組みは相当先行しているのでしょうか。

教育委員

津 そうですね。令和5年3月に策定された栃木県の移行プランでは、令和7年度までに全公立中学校の休日の部活動の1つ以上の移行を目指すこととなっていますが、田沼東中、あそ野学園とも、文化部も含め、休日に活動している全ての部活が移行していますね。

地域移行のメリット

地域移行のメリットはどのようなところにありとお考えでしょうか。

教育委員

津 スポーツや文化活動とおし、生徒と地域の人との間に新しい関わりが生まれるのが素晴らしいと感じています。これによって、スポーツや文化活動の機会をしっかりと確保でき、教職員の負担軽減につながれば、これは大きなメリットだと思います。

教育委員

新 生徒にとっては、専門的な指導者からの手ほどきを受け、技術が身に付

くということがメリットだと思えます。月に2回、地域の指導者との練習や他校生徒と一緒に部活動を楽しみにしている生徒がたくさんいます。田沼東中では、生徒の8割が地域クラブ活動に肯定的な感想を持っていて、外部からの指導者が、子どもたちに非常に良い刺激をもたらしています。

首 教職員としては、休みが増え、土曜日にプライベートの充実が図れるようになりました。

清 私たちは、総合型地域スポーツクラブということでこの事業に関わっています。総合型地域スポーツクラブでは「多項目」「多世代」「多志向」を運営の基本として掲げています。この考え方を中学校の部活動が取り入れることによって、中学生がいろいろな種目に取り組みたり、目標によって取り組み方を変えられたりします。中学校の部活動では、これまで地域が関わるのがほとんどありませんでしたので、やっとこういう時代が来たかと感じています。

地域移行の課題
一方で、地域移行のデメリットや課題については、どのようなものを想定しているのでしょうか。

清 今回の部活動は、公教育の考え方が根本にあることから無償が原則です。しかし、地域クラブ活動は生涯スポーツの範疇であることから、当然に費用負担が発生します。現在は国の実証事業ということで、十分な予算をいただき、金銭的な負担

部活動の

地域で子育てをする

部活動の地域移行について、現状や成果、課題などを自治体をはじめ

教育関係者対談

教育長

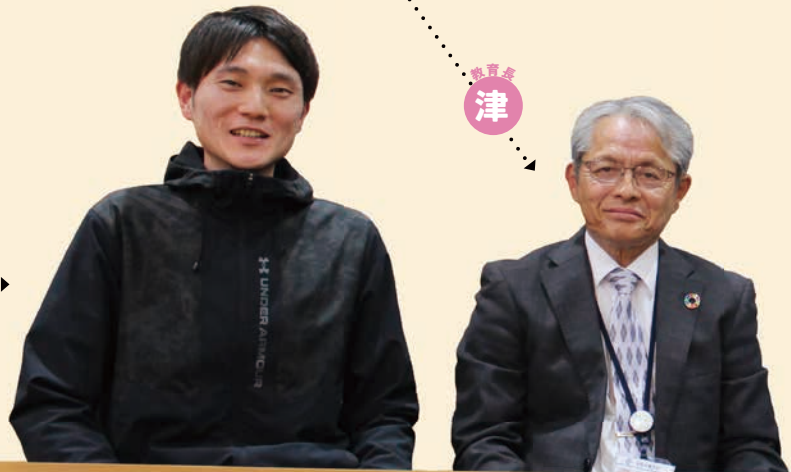
津布久 貞夫 さん

令和2年5月教育長就任。
自治体の立場からお話しいたします。

あそ野学園義務教育学校教諭

首藤 海 さん

あそ野学園サッカー一部顧問。
部活動の指導者として、地域の指導者との連絡調整などを行う教員の立場からお話しいたします。



はなく子どもたちへの指導が行えていません。しかし、どこかの時点で国の助成はなくなるでしょう。そうなったときに、指導に係る金銭的負担をどう補っていかかが、大きな課題になってくると思います。

津 費用負担は大きな課題です。千葉県柏市などは、既に保護者から費用負担をいただき、これを財源に地域クラブが指導しているという話です。将来的に費用負担は避けて通れませんが、保護者や市民の方にご理解いただけるよう説明していかねばならないと、切に感じています。

首 現場としては、学校施設の施設・解錠が課題となっています。現状では教職員が施錠・解錠を行っていますが、地域の指導者に鍵を預けられるような環境が整備されれば、解決できるのではないかと思います。

それと、土曜日に地域クラブの皆さんが部活動を指導くださっている間、生徒たちにはがや事故が起きていないかが心配でした。最初のうちは、気になって自宅待機していました。そういうところは、少し課題かなと思います。

新 首藤先生すごいですね。そういうところは管理職に任せておけばいいんですよ（笑）。地域クラブ活動は、学校から切り離して考える。そういう考え方で良いと思います。

私は、部活動の地域移行について、規模が大きくなるほど、移動の負担、人数とキャパシティの問題が出てくると危惧しています。市は、この辺をクリアできるよ